

『プロヴォーク』

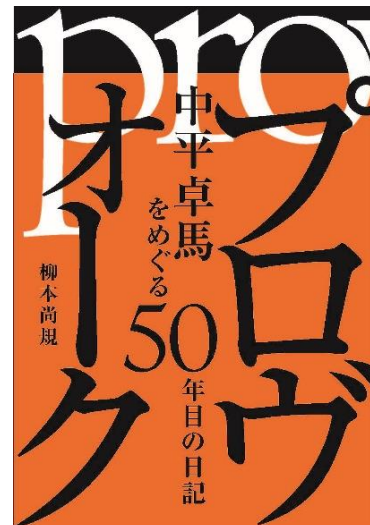
中平卓馬をめぐる 50年目の日記』

柳本 尚規 著

本体3,500円 + 税 / 四六判並製 / 440頁 ISBN: 978-4-924671-63-8

1960年代末から70年代中頃にかけて、写真家、批評家として精力的に活動した中平卓馬。彼の撮る写真群は「アレ・ブレ・ボケ」と称され、当時の若者の心情と共振し話題となった。しかし中平の写真は本当に「アレ・ブレ・ボケ」だったのだろうか。活動を傍で見てきた著者だからこそ語ることのできる中平卓馬の姿とは――。

美しい写真を撮っていた頃の中平さんの記憶を綴っておきたい――柳本尚規



2024年2月6日から東京国立近代美術館で 約20年ぶりとなる“大個展”を開催！

【本書の内容】

「激動」と表現されることの多い1960年代後半から1970年代初頭。

総合雑誌『現代の眼』編集者時代に東松照明、寺山修司らの連載を担当していた中平卓馬は、同時代に活躍する表現者たちの仕事に触発され「写真家になる」ことを決意する。やがて中平は多木浩二、岡田隆彦、高梨豊とともに、写真同人誌『プロヴォーク』を1968年に創刊（2号目からは森山大道も参加）。

中平の作品発表の場は、『プロヴォーク』のほか、『現代の眼』『朝日ジャーナル』『アサヒグラフ』『デザイン』といった従来のカメラ雑誌とは異なる媒体を中心としていた。中平は言論の場とどのように関わり、どのように写真と向き合っていたのか。

中平卓馬と共に写真家となり、共に行動し、その姿を傍で見てきた一人である著者・柳本尚規が、伝説になる前の、20代後半から30代前半の中平卓馬の姿を描く回想記。

【著者】柳本尚規(やなぎもと・なおみ) 写真家・東京造形大学名誉教授。一九四五年、北海道旭川市生まれ。日本大学芸術学部写真学科中退。在学中に写真批評誌『フォト・クリティカ』を創刊。一九六八年には多木浩二、中平卓馬との縁で写真同人『PROVOKE』創刊に編集・制作として関わる。自身も写真家として作品を発表し、写真批評を中心とした執筆活動も行う。一九七三年からは東京造形大学で後進の指導にあたった。

◆◆事前予約受付中！【1月17日（水）受注締切】◆◆

電子メールでのお問い合わせ、ご発注も受け付けております。info@dokushojin.co.jp

番線印	株式会社読書人受注短冊	ご注文数
	プロヴォーク 中平卓馬をめぐる 50年目の日記 柳本 尚規著 本体：3,500円 + 税 ISBN: 978-4-924671-63-8	冊
電話番号	—	—
FAX	—	—
ご担当者様名		

FAX 03-5244-5976 までご予約お待ちしております！